

# EVERES

エベレス

## 無料春期講習

## 英語

	テーマ	問題	解答解説
第1回	【文法】比較 比較級を用いた表現を究める	P36～ P39	P116～ P119
第2回	【文法】仮定法 仮定法の基本	P50～ P53	P132～ P135

EVERES高1講座から、  
春期講習用にテーマを選びすぐりました。

※本テキストや映像の一部あるいは全部を無断で複写・複製することは、著作権法で認められている場合を除き禁じられています。

© Benesse Corporation 2022

## 合格テクニック

- 1▶ 否定語noの本質をとらえて比較表現を理解する
- 2▶ 〈the＋比較級〉が文頭に移動する前の元の文を意識する

今回の授業では、比較級にスポットを当て、否定語が含まれる表現や the とともに用いられる表現を見ていくこととする。否定語が含まれる表現の本質や〈the＋比較級〉の成り立ちといった根本を押さえることで、比較表現への理解を深めてほしい。

## 例題1

次の英文を、日本語に訳しなさい。

A look at my watch told me that I had no more than five minutes left.

---

## 例題1の解答

時計を見ると、たった5分しか残されていないことがわかった。

例題2

次の英文を、日本語に訳しなさい。

The more cigarettes you smoke a day and the longer it has been since you started smoking, the greater your risk of lung cancer is.

---

---

例題2の解答

あなたが1日に吸うタバコの数が多ければ多いほど、またタバコを吸い始めてからの期間が長ければ長いほど、肺ガンになる危険性は高くなる。

# 演習

---

1 次の英文の( )内に入る最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。(12点—各3点)

- (1) Mary liked the necklace but couldn't buy it because she had ( ) 20 dollars with her.  
ア no more than イ not less than ウ the least エ as much as ( )
- (2) He is none ( ) happier for his wealth.  
ア less イ the ウ more エ but ( )
- (3) I am ( ) to fly than a chicken is, so I can't catch that flying balloon.  
ア no less able イ no less capable ウ no more able エ no more capable ( )
- (4) They usually sell two models, and this is ( ) of the two.  
ア cheaper イ the cheaper ウ the most cheapest エ more cheap ( )

2 次の英文の下線部分のうち、文法・語法的に誤っているものを1つ選び、記号で答えなさい。(6点—各3点)

- (1) Kate ア kept it to herself, never イ mentioning it to her sister, still ウ more エ to her mother. ( )
- (2) Sandy, a friend of ア mine, was all イ more ashamed ウ because her brother spoke エ too loudly. ( )

3 日本文に合う英文になるよう、与えられた語句を並べ替えなさい。(12点—各4点)

- (1) 彼女は、自分の母校に100万円も寄付した。(語句のうち1つは不要)  
She ( one / no / than / more / donated / less / million ) yen to the school she graduated from.
- She \_\_\_\_\_  
yen to the school she graduated from.

- (2) 旅行から帰ってきた時、私の財布にはせいぜい10ドルしかなかった。(語句のうち1つは不要)  
When I came back from my trip, ( more / ten dollars / had / less / than / not / I ) in  
my wallet.

When I came back from my trip, \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ in my wallet.

- (3) 年を取るにつれて、自分の欠点がわかってきたよ。  
The older I got, ( I / of / more / own / the / aware / my / became ) faults.

The older I got, \_\_\_\_\_  
faults.

**4** 次の英文を、日本語に訳しなさい。(20点—各10点)

- (1) Air pollution does no less harm to animals than it does to human beings.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

- (2) The longer I had to wait to hear the result of the game, the less sure I became of the  
chances of my favorite team winning.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

総得点

/50点

## 第2回 比較級を用いた表現を究める

## 解答

- 1 (1) ア (2) イ (3) ウ (4) イ
- 2 (1) ウ (more→less) (2) イ (more→the more)
- 3 (1) (She) donated no less than one million (yen to the school she graduated from.) (more 不要)  
 (2) (When I came back from my trip,) I had not more than ten dollars (in my wallet.) (less 不要)  
 (3) (The older I got,) the more aware I became of my own (faults.)
- 4 (1) 大気汚染は人間（に害を与えるの）と同じくらい、動物にも害を与える。  
 (2) その試合の結果を聞くのを待たなければならない時間が長くなればなるほど、私はお気に入りのチームが勝つ可能性を確信できなくなった。

## 解説

1

- (1) 前半に「メアリーはそのネックレスを気に入ったが買えなかった」とあり、because 以下には、その理由が挙げられることになる。したがって、「お金がない」といったマイナスイメージの意味になる表現を選ぶ。正解はア no more than。〈no more than ...〉で「ほんの…にすぎない」(= only) という意味なので、she had no more than 20 dollars with her で「彼女は20ドルしか持っていなかった」となり文意が通る。イ〈not less than ...〉は「少なくとも…(以上の)」、エ〈as much as ...〉は「…もの」というプラスイメージの意味を表すので文意が通らない。ウ the least は後に形容詞や副詞の原級が続くと「最も…でない」という意味の最上級を表すが、本問では後に原級が続いていないので不適切。

訳 「メアリーはそのネックレスを気に入ったが買えなかった。というのは、彼女は20ドルしか持っていなかったからだ」

## 理解の拡張

least が含まれる表現

- (1) 〈the least + 形容詞〔副詞〕の原級〉「最も…でない」

My mother is the least skillful driver in my family. 「私の母は家族の中で車の運転が一番下手だ」

→ the most と逆で、〈形容詞〔副詞〕〉の程度が最も低いことを表す最上級。

- (2) 〈not ... in the least〉「少しも…でない」

The movie was not interesting in the least. 「その映画は少しも面白くなかった」

→強い否定を表す。

- (3) 〈at least〉「少なくとも」

I will stay here for at least three days. 「私は少なくとも3日間はここに滞在するつもりだ」

- (2) 空所の前の none と空所の後の happier for に着目する。<none the + 比較級 + for ~>で「～だからといってより…にはなっていない」という意味を表す。したがって、イ the が正解。この文の for は前置詞で後に名詞が続いているが、接続詞の because を用いて、He is none the happier because he is wealthy. としても同じ意味を表す。

訳 「彼は財産があるからといってより幸せにはなっていない」

- (3) 空所の後に to fly と to 不定詞が続いていることから、<be 動詞 + able + to 不定詞>「…することができる」の表現を用いると考えられるので、正解はア no less able かウ no more able のどちらかとなる。イ、エに用いられている capable は<be 動詞 + capable of -ing>という形で「…する能力がある」という意味を表すので不適切。アかウかは文脈で判断する。比較の対象は a chicken「ニワトリ」で、ニワトリに飛ぶ能力はなく、また後半に「風船を捕まえられない」という内容の文が続いているので、正解はウ。<no more ... than ~>は「～同様…ではない」という<否定>の表現で、前半が「私はニワトリ同様飛べない」という意味となり、文意が通る。<no less ... than ~>は「～に負けない[と同じ]くらい…である」という<肯定>の表現となるので、ここでは不適切。

訳 「私はニワトリ同様飛べない。だからあの飛んでいく風船を捕まえられない」

模試・入試ではこう問われる！

「できる・できない」に関する表現は to 不定詞や -ing など後に続く形とともに押さえる必要がある。

できる		「彼は泳ぐことができる」
<be 動詞 + able + to 不定詞>	「…することができる」	He is able to swim.
<be 動詞 + capable of -ing>	「…する能力がある」	He is capable of swimming.
<it is possible for ~ + to 不定詞>	「～が…することができる」	It is possible for him to swim.

できない		「彼は泳ぐことができない」
<be 動詞 + unable + to 不定詞>	「…することができない」	He is unable to swim.
<be 動詞 + incapable of -ing>	「…する能力がない」	He is incapable of swimming.
<it is impossible for ~ + to 不定詞>	「～が…することは不可能だ」	It is impossible for him to swim.

- 難 (4) 空所の後の of the two に注目する。of the two は「2つのものの中で」という意味で、二者を比較する表現となっている。このように、二者の比較を行う場合、一方が決まると他方もおのずと決まるので、比較級に the をつけて表す。したがって、正解はイ the cheaper。ア cheaper は the がついていないため不適切。また、cheap は cheap-cheaper-cheapest と変化することから、ウ the most cheapest もエ more cheap も不適切。

訳 「彼らは通常は2つのモデルを販売しており、これは2つのうちの安い方だ」

2

- 難 (1) <否定文 ..., still less ~>で「…でない、ましてや～でない」という意味を表す。したがって、誤りはウ more。ここでは否定語 never を用いた「姉に打ち明けない」という否定の内容が、still less を用いることで、「ましてや母親には打ち明けない」とさらに強調されている。still less によって、to her sister と to her mother が対比されていることに注意。このような場合、原則として文法上、対等の形で対比するので、to her mother の to は必要となる。したがってエ to は正しい。<keep ... to oneself>は「…を人に知らせずにおく」という意味、また mention は「…のことを言う」という意味の他動詞で、ここでは分詞構文として用いられているので、ア kept、イ mentioning はいずれも正しい。

訳 「ケイトはそのことを人に知らせずにおき、姉に打ち明けることは決してなかったし、ましてや母親に打ち明けることは決してなかった」

- (2) <all the + 比較級>で「よりいっそう…」という意味を表すが、比較級 **more ashamed** に **the** がついていないので、**more** が誤り。<all the + 比較級>の後には〈理由〉を示す **because** 節が続く場合があるので、**because** は正しい。**a friend of mine** は「私の友人の1人」という意味で、**Sandy** と〈同格〉になっている。**too loudly** は動詞 **spoke** を修飾している副詞句で正しい。

訳 「私の友人の1人であるサンディは、弟(兄)があまりにも大声で話したので、よりいっそう恥ずかしかった」

### 3

- (1) 「100万円も」をどう表すかが本問のポイント。<no less than ...>で「…も(の)」という意味を表すので、これを用いて **no less than one million (yen)** と並べる。<no more than ...>は「ほんの…にすぎない」という意味なので、ここでは不適切。したがって、**more** が不要。「…を～に寄付する」は〈**donate ... to ~**>と表す。

#### 模試・入試ではこう問われる!

単数形と複数形が同じ形となる名詞を単複同形の名詞と呼ぶ。③(1)の語句を確認してみると、**one million yen** の **yen** に複数形の **-s** がついていない。これは、**yen** 「円」が単複同形の名詞だからだ。単複同形の名詞でない **dollar** 「ドル」の場合、**one million dollars** と複数形の **-s** がつく。単複同形の主な名詞は次の通りである。

**means** 「手段」、**species** 「種」、**sheep** 「ヒツジ」、**Chinese** 「中国人」、**Japanese** 「日本人」、**Swiss** 「スイス人」、**percent** 「パーセント」、**yen** 「円」

- (2) 「せいぜい10ドルしか」をどう表すかが本問のポイントである。与えられた語句より <not more than ...> 「せいぜい〔多くても〕…」を用い、**not more than ten dollars** と並べる。**not more than ten dollars** は **at most ten dollars** としても同じ意味になる。**not less than ten dollars** は **at least ten dollars** とほぼ同じで「少なくとも10ドル」という意味となり、日本語に合わないのが不適切。したがって、**less** が不要。
- (3) 日本語と **The older** で英文が始まっていることから、〈**The + 比較級 ..., the + 比較級 ~.**〉を用いると判断する。「自分の欠点がわかってきた」は〈**become aware of ...**〉「…に気づく」を用いて、**I became aware of my own (faults)** と組み立てるが、形容詞 **aware** を比較級 **more aware** にして **the** をつけ、文頭に持ってこなければならない。したがって、**the more aware I became of my own (faults)** と並べる。(×) **the more I became aware of my own (faults)** と並べないよう注意。〈**The + 比較級 ..., the + 比較級 ~.**〉は、形容詞や副詞の比較級を文頭へ移動するということを確認しておく。

### 4

- (1) <no less ... than ~>で「～と同じくらい…である」という意味を表す。ここでは **to animals** と **to human beings** を比較している。また、〈**do harm to ...**〉で「…に害を及ぼす」(=**do ... harm**) という意味。したがって、英文全体は、「大気汚染は人間(に害を与えるの)と同じくらい、動物にも害を与える」という意味になる。**than** 以下の **it** は主語の **air pollution** を指し、**does** は **does harm** の代わりに用いられている。





合格テクニック

- 1▶ 仮定法のifの省略を見抜く
- 2▶ 仮定法のif節の表現に着目せよ

仮定法は苦手とする人が多い項目だが、本質を押さえることで応用的な表現も理解しやすくなる。今回の授業で仮定法の基本をしっかりと身につけてほしい。

例題 1

次の英文を、日本語に訳しなさい。

The construction of the road to the airport would have been completed last month had it not rained so much.

---

---

例題 1 の解答

もしそれほど雨が降らなかったら、空港までの道路の建設は先月終わっていただろう。

例題 2

次の英文を、日本語に訳しなさい。

Were the university to increase the number of courses it offers, the students would benefit from the wider selection and smaller classes.

---

---

例題2の解答

もしその大学が提供する講座の数を増やすとしたら、学生は選択肢が広がり、より人数の少ないクラスになることから利益を得るだろう。

# 演習

---

1 次の英文の( )内に入る最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。(12点—各3点)

- (1) Rain is predicted for tomorrow. If it ( ) tomorrow, I will stay home.  
ア rains イ rained ウ will rain エ had rained ( )
- (2) If it ( ) fine the day before yesterday, John would have left for the Rocky Mountains.  
ア were イ would be ウ had been エ would have been ( )
- (3) ( ) a global economic crisis to arise, the prime minister would have to act quickly.  
ア If イ Did ウ Should エ Were ( )
- (4) If you ( ) this morning, I might still be in bed.  
ア couldn't call me up イ hadn't called me up  
ウ didn't call me up エ wouldn't call me up ( )

2 次の英文の下線部分のうち、文法・語法的に誤っているものを1つ選び、記号で答えなさい。  
(12点—各4点)

- (1) ア Did I know that she イ didn't feel very well yesterday, I ウ wouldn't have asked her to work エ late. ( )
- (2) If it ア had not rained so much last winter, we イ would have been ウ in the middle of a エ severe water shortage now. ( )
- (3) If you ア arrived イ a little sooner last Sunday, you ウ would have been able to get some of the free samples we エ were giving away. ( )

3 日本文に合う英文になるよう、与えられた語句を並べ替えなさい。ただし、文頭にくるべき語も小文字にしている。(6点—各3点)

- (1) 彼がまじめな学生なら、もっとよい成績を取るでしょうに。  
( better / a / he / he / get / were / would / student / serious / , ) grades.

\_\_\_\_\_ ,  
grades.

- (2) もし不審なバッグを見つけたら、車掌までお知らせください。  
( you / if / notice / suspicious / bags / should / any ), please inform the conductor.

\_\_\_\_\_ ,  
please inform the conductor.

4 次の英文を、日本語に訳しなさい。(20点—各10点)

- (1) The violinist was dressed so casually that we couldn't have told him from the audience, had he not had a violin with him.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

- (2) Should you change your mind, let me know as soon as possible.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

総得点

□ /50点

第1回 仮定法の基本

解答

- 1 (1) ア (2) ウ (3) エ (4) イ
- 2 (1) ア (Did I know→If I had[Had I] known)  
(2) イ (would have been→would be) (3) ア (arrived→had arrived)
- 3 (1) Were he a serious student, he would get better (grades.)  
(2) If you should notice any suspicious bags(, please inform the conductor.)
- 4 (1) そのバイオリニストは非常にカジュアルな服を着ていたの、もし彼がバイオリンを持っていなかったら、私たちは彼と聴衆を区別することができなかつたろう。  
(2) 万一気が変わったら、できるだけ早く私に知らせてください。

解説

1

- (1) 2文目の主節に着目すると、Vがwill stayで、助動詞が過去形ではないので、この文は仮定法過去の文ではなく、直説法未来の文であると考えられる。よって、過去形のイ rained や過去完了の工 had rained は不適切。このif節は「もし…ならば」という〈条件〉を表す副詞節で、直説法の〈条件〉を表す副詞節では、一般に未来の事柄は現在形で表すので、ウ will rain も不適切。よって正解はア rains。

訳 「明日雨が降ると予想されている。もし雨が降れば、私は家にいるつもりだ」

模試・入試ではこう問われる！

〈時〉や〈条件〉を表す副詞節では未来のことも現在形で表す。同じ接続詞で導かれていても、名詞節の場合は未来のことをwillを用いて表すので、副詞節か名詞節かをしっかりと見極めること。

I will call you {when he comes home}. 「彼が家に帰ってきたら電話します」  
S V O 副詞節

→ when he comes home は〈時〉を表す副詞節なので、(×) when he will come home とはならない。

I don't know {when he will come home}. 「彼がいつ家に帰ってくるかわからない」  
S V O(名詞節)

→ when he will come home は他動詞knowの目的語として働く名詞節なので、未来の事柄はwillなどの未来を表す語句を用いて表す。

- (2) if節にthe day before yesterday「おととい」という過去を表す語句があり、主節のwould have leftは〈助動詞の過去形+have+過去分詞〉の形なので、仮定法過去完了の文と考えられる。仮定法過去完了のif節の動詞は過去完了(had+過去分詞)で表すので、ウhad beenが正解となる。過去の事

実に反する仮定を表す場合は、仮定法過去完了を用いることに注意すること。

訳 「もしおととい晴れていたら、ジョンはロッキー山脈に向けて出発しただろう」

- (3) 主節の助動詞 **would** から、文全体は「世界的経済危機が起きたら、首相は素早く行動しなければならないだろう」というような意味の仮定法過去の文と考えられる。ここで、コンマの前の **to arise** という不定詞に注目。仮定法で用いられる **if** が省略され、**(S' + V')** が倒置された形と考えれば、**If a global economic crisis were to arise** の倒置形は **Were a global economic crisis to arise** となるので、意味的にも構造的にも成立する。よって、**Ⅰ Were** が正解。**if 節の (were + to 不定詞) は、将来起こる可能性が低い条件などを表す。**

訳 「万一世界的経済危機が起きたら、首相は素早く行動しなければならないだろう」

- 難 (4) 主節の **V** を見ると〈助動詞の過去形 + 原形不定詞〉なので、仮定法過去の形である。しかし、**if 節** には **this morning** 「今朝」という過去を表す表現があることに注目。文全体の意味を考えると、「もしあなたが今朝電話をかけてくれなかったら、私はまだ寝ているかもしれない」となるのが自然なので、**if 節** は過去の事実と反する仮定を表していると判断できる。過去の事実と反する仮定は仮定法過去完了で表すので、正解は **Ⅱ hadn't called me up**。このように **if 節では仮定法過去完了**、**主節では仮定法過去** と **if 節と主節で表す〈時〉** が異なる文は間違えやすいので気をつけること。主節が仮定法過去だからという理由だけで、自動的に過去形の **Ⅲ couldn't call me up**、**Ⅳ didn't call me up**、**Ⅴ wouldn't call me up** を選ばないようにしたい。

訳 「もしあなたが今朝電話をかけてくれなかったら、私はまだ寝ているかもしれない」

## 2

- (1) 過去を表す **yesterday** から、文全体は「昨日彼女があまり気分がよくないということを知っていたら、私は彼女に遅くまで働くように頼まなかっただろう」という過去の事実と反する仮定を表していると考えられる。**過去の事実と反する仮定は仮定法過去完了 (If + S' + had + 過去分詞 ..., S + would/could/might have + 過去分詞 ~.)** で表すので、**Ⅲ wouldn't have asked** は正しく、**Ⅰ Did I know** が誤っている。**Ⅱ If I had known**、もしくは **if** を省略して **(S' + V')** を倒置した **Had I known** であれば正しい文となる。仮定法の条件節において、**if** を省略した **(Did + S' + 動詞の原形)** という倒置形はそもそも存在しないことに注意。「昨日彼女はあまり気分がよくなかった」というのは過去の事実なので、直説法過去の **Ⅳ didn't feel** は正しい。**Ⅴ late** は「遅くまで」という意味の副詞で、**work** を修飾している。

訳 「昨日彼女があまり気分がよくないということを知っていたら、私は彼女に遅くまで働くように頼まなかっただろう」

- 難 (2) この文の **if 節** には、過去の事柄であることを示す **last winter** 「この前の冬」という語句があるが、主節は文末の **now** からわかるように現在の事柄を述べていることに注意。現在の事実と反する仮定は仮定法過去を用いるので、**Ⅱ would have been** は **would be** でなければならない。過去の事実と反する仮定を表している **if 節** では仮定法過去完了を用いるので、**Ⅰ had not rained** は正しい。Ⅲの **(in the middle of ...)** は「…のまっただ中に」、**Ⅳ severe** は「深刻な」という意味。

訳 「この前の冬にそれほど多くの雨が降らなかったら、私たちは今、深刻な水不足のまっただ中にあることだろう」

- 難 (3) **if 節** に過去を表す **last Sunday** があることに注目。文全体の意味を考えると、「もししみがこの前の日曜日にもう少し早く到着していたら、私たちが配っていた無料試供品をいくつか手に入れることができただろう」と、やはり過去の事実と反する仮定と判断できる。よって、仮定法過去完了で表さなければならないが、**if 節の動詞Ⅰ arrived** が過去形なので、これが誤り。過去完了 **had arrived** であれば正

しい形になる。ウ **would have been able to** は、〈be 動詞 + able + to 不定詞〉の be 動詞を〈助動詞の過去形 + have + 過去分詞〉の形にしたもので、正しい。工を含む **the free samples we were giving away** では、**samples** の後に〈目的格〉の関係代名詞 **which[that]** が省略されている。この部分は過去の事実を表しているので、直説法の過去進行形である **we were giving away** は正しい。〈give away ...〉は「(無料で) ...を配る」という意味。

訳 「もしきみがこの前の日曜日にもう少し早く到着していたら、私たちが配っていた無料試供品をいくつか手に入れることができただろう」

3

- (1) 日本語が現在の事実に反する仮定となっていることから、**仮定法過去の文 (If + S' + 過去形 ..., S + would/could / might + 原形不定詞 ~.)** にする。If he were a serious student, he would get better (grades.) となるが、与えられた語句に if がないので、If を省略し、Were he a serious student, ... と倒置形にする。

- 難 (2) 「車掌までお知らせください」は文末に **please inform the conductor** と示されているので、「もし不審なバッグを見つけたら」の部分と並べる。日本語から、**事実に反する仮定を述べた文ではないことがわかるので、if 節は直説法か将来起こる可能性が低い条件を表す仮定法で表す。** 与えられた語句に **should** があることから後者と考え、If you should notice any suspicious bags とする。if 節に **should** を用いた場合、主節には助動詞の過去形だけでなく、助動詞の現在形や本問のような命令文も用いられることに注意。

4

- 難 (1) まず、**The violinist was dressed so casually that ...** は〈so ... that ~〉「非常に...なので~」の構文である。**be dressed** は「服を着ている」という意味なので、「そのバイオリニストは非常にカジュアルな服を着ていたので」などと訳す。**that** 節の **couldn't have told** は〈助動詞の過去形 + have + 過去分詞〉の形なので、**仮定法過去完了**と考えられる。すると、**had he not had a violin with him** は、**if he had not had a violin with him** という**仮定法過去完了**の if 節から if を省略した倒置形であると判断できる。〈tell A from B〉は「A と B を区別する」という意味なので、**that** 節は「もし彼がバイオリンを持っていなかったら、私たちは彼と聴衆を区別することができなかっただろう」などと訳す。

構文解説

The violinist was dressed so casually that we couldn't have told him {from the audience},  
 S V S' V O'  
 {had he not had a violin with him}.  
 S" V" O"

模試・入試ではこう問われる!

「A と B を区別する」という意味を表す表現はいくつかあるので、ここで整理しておく。

tell A from B 「A と B を区別する」

distinguish A from B = distinguish (between) A and B 「A と B を区別する」

know A from B 「A と B を見分けられる」



- (2) **Should** で始まる文であるが、文末にクエスチョンマークがないことから、疑問文ではないことがわかる。仮定法の **If you should change your mind** の **if** が省略され、〈S' + V'〉が倒置された形と考えれば、コンマの後の命令文につながる。if 節に助動詞 **should** を用いると、「万一…ならば」という将来起こる可能性が低い条件を表すので、**Should you change your mind** は「万一気が変わったら」などと訳す。主節の **let** は使役動詞で、〈let + O + 原形不定詞〉で「O に…させてやる、O が…するのを許す」という意味。**let me know** は「私を知るのを許してください→私に知らせてください」となる。〈as ... as possible〉は「できるだけ…」という意味。よって主節は「できるだけ早く私に知らせてください」と訳す。

構文解説

{Should you change your mind}, let me know {as soon as possible}.

